

HPVワクチンの情報提供の評価に関する検討の経緯等

1. HPVワクチンの情報提供の評価に関する検討の経緯

（1）調査結果の概要

第 42 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会（令和元年 8 月 30 日開催）では、HPVワクチンの情報提供に関する評価（調査結果）を公表した。

<調査結果の概要>

- 自治体におけるリーフレットの活用状況や、国民のリーフレットの認知状況は必ずしも高くない。
 - ・ web 掲載や窓口設置・配布なし：自治体の 70.9%
 - ・ リーフレットを見たことがない：調査対象者（12～69 歳）の 86.3%
- リーフレットは、HPVワクチンの有効性と安全性を伝えるものとして理解されているが、より分かりやすい表現が求められている。
- ※ 「HPVワクチンの接種に対してどんな考えを持っているか」については、「わからないことが多いため、決めかねている」という回答が調査対象者の 41.3%を占めた。
- ※ また、HPVワクチンの意義・効果を知らない・聞いたこともないという回答が調査対象者の 34.2%、接種後に起こりえる症状について、知らない・聞いたこともないという回答が、それぞれ調査対象者の 45.5%を占めた。

（2）検討事項

この調査結果を踏まえ、以下について検討することとされた。

- ① HPVワクチンの接種対象者やその保護者に対し、より確実に情報を届ける方法を検討する必要があるのではないか（情報提供の方法）。
- ② より分かりやすいリーフレットとするために、調査結果等を踏まえて記載内容を改訂してはどうか（情報提供の内容）。

2. 第 42 回副反応検討部会（令和元年 8 月 30 日開催）における主な御意見

(1) 現在のリーフレットの内容についての主な御意見

- 「積極的におすすめすることを一時的にやめています」という表現は、行政的な対応の説明であり分かりにくい。より国民が理解しやすい表現にすべき。
- 子宮頸がんがどういった疾患か、深刻度や実態の記載がない。これらを記載した上で、ワクチンの子宮頸がんに対する予防効果について、記載すべき。
- 誰に向けた、何を目的としたリーフレットなのかを明確化することが必要。
- リーフレットの改訂に当たっては、リスクコミュニケーションの専門家が関わって、分かりやすい表現とすべき。

(2) 情報提供の方法等についての主な御意見

- 接種対象者に確実に情報を届けるため、全自治体で対象者に個別送付を行うことを検討していくべき。
- 自治体が、情報提供を出来ていない理由を分析すべき。
- 情報提供に当たっては、かかりつけ医やマスメディアの役割も極めて重要。

3. 第44回副反応検討部会（令和元年11月22日開催）における主な御意見

第44回副反応検討部会においては、以下の事項についてコミュニケーションの専門家等からヒアリングを行った。

- ・ どのように情報を届けるか
- ・ 情報提供としても求められる内容及び情報の受け手にわかりやすい内容とは何か
- ・ その他情報提供に関して留意すべき事項

(石川参考人)

- 情報提供に当たっては、①分かりやすさ、②社会的証明（特定の状況である行動を行っている人が多いほど、それが正しい行動だと判断すること）の影響、③具体的な行動につながる情報、を意識することが重要。
- リーフレットの趣旨に鑑みると、接種を検討している者だけでなく、接種を検討していない者も含め、ワクチン接種対象者全体に向けて発信すべき。この点、現在のリーフレットの表現とはズレがある。
- 現在のリーフレットにある「HPVワクチンは積極的におすすめすることを

一時的にやめています」との記載は、レイアウト上、意義と効果の結論のように見える。こうしたあいまいさがコミュニケーションエラーの基になり得る。

- 副反応について、専門用語が多用されているほか、解釈が必要な数値が記載されている。これらは、どういう意味でリーフレットに記載されているかを明確に位置付けるべき。
- 情報の見にくさは、記載されている行動をとらない可能性を高めるため、情報を絞るべき。

(野口参考人)

- 情報の回路、情報の量、情報の質の視点から、伝わるコミュニケーションをデザインすることが重要。
- 現在のリーフレットに記載されている情報は、一般生活者が簡単に理解できる内容になっているか、検討すべき。
- 情報の回路について、自治体の市役所等での配布で十分か、検討すべき。
- 3種類のリーフレットが、何を目的として情報伝達をしようとしているのか、明確にすべき。

(阿真参考人)

- 病気そのものの説明、ワクチンの効果、副反応について、心配をあおらず、また非難するでもなく、事実を伝えることが重要。
- 「HPVワクチンは積極的におすすめすることを一時的にやめています」との文言については、「かえって不安になった」という声がある。
- 分かりやすく伝えるためには、目的が分かりやすいこと、言葉が易しいこと、分量が多すぎないことなどが重要。現在のリーフレットについては、4枚という分量は多く、また、接種が必要なのか、控えてほしいのかが分かりにくいなどの課題がある。
- より詳しく知りたいと思った者が厚労省HPを見ることができるよう、例えばQRコードがついていたほうが良いのではないか。